

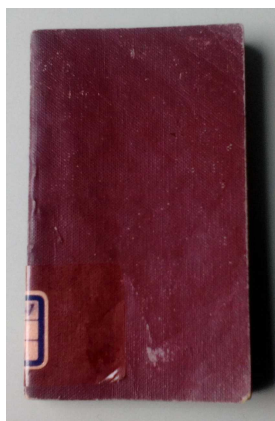
統計コラム 第6回 隠れたベストセラー『群馬県民手帳』

今年もはや10月となり、そろそろ来年のことが気になる時期になってきました。「新しいダイアリーの準備も…」とお考えの皆さん、『群馬県民手帳』はご存知でしょうか？

現在、「県民手帳」は全国47都道府県のうち、東京や大阪、北海道などを除く、41県で同様のものが作られているようです。本県ではいつから発行しているか、正確なところは資料がないので分かりませんが、課の書庫にはなんと戦争直後の昭和21年(!)の手帳サイズ版が残っていることから、長年にわたり県民の皆さんに親しまれてきたことが窺えます。

サイズは縦13センチ×横7センチで、約160ページの内訳は、カレンダー日程表が約80ページ、空白メモ欄が約50ページ、その他住所録欄や簡単な統計資料、郵便料金などが約30ページという構成になっています。(残念ながら価格は不明)

昭和21年版ということは、終戦の年である昭和20年中に作成したということであり、先人たちのご苦労には改めて敬服するところです。



昭和21年県民手帳からの抜粋

内閣総理大臣 幣原 喜重郎
外務大臣 吉田 茂
厚生大臣 芦田 均
群馬県知事 高橋 敏雄
(楫取素彦から数えて37代目)

群馬県の人口 1,544,865人(S20)
県内の市の数 4(前橋・高崎・桐生・伊勢崎)
通常葉書5銭、有封書状10銭(20瓦迄)

1月1日：四方拝
2月11日：紀元節

4月3日：神武天皇祭
4月29日：天長節

11月3日：明治節
11月23日：新嘗祭

ちなみに筆者は、県職員に採用されたと同時に(まだ昭和でした)に使い始めて、予定表兼日記帳として重宝しています。過去のものには全冊を保存してあるので、昔のことで確認したいことなどがあつたときには引っ張り出して広げてみたり、つつい目的だった箇所以外のところを読みふけったりなどしながら、感傷にひたたりすることもあります。

県が発行する手帳であることから、カレンダー日程表や統計資料、県内お役立ち情報という基本的な内容構成は変わっていませんが、長年、今のものよりやや小ぶりサイズの黒表紙だったものが、1988年(昭和63年)版から今と同じA6サイズになり、表装は紺と赤の2種類で資料編が別冊となるなど、大きく様変わりしました。

その後、1992年(平成4年)版から紺が濃緑に変わり、2000年(平成12)版からはさらにページが加わって現在と同じ三色となり、そして2018年(平成30年)版からはA5の大型サイズが加わりました。なお、ぐんまちゃんの登場は、2015年(平成27年)版からです。

毎年3万冊以上の販売実績があることから、隠れたベストセラーとの評価もいただいています。大型・小型、どちらも表紙などにぐんまちゃんが描かれていることから、県内はもとより、県外在住の方からも、ぐんまちゃんグッズの一つとしてのご購入もいただいているようです。

2020年版の県民手帳は、例年どおり、群馬県民の日(10月28日)から発売を開始します。価格はA6スリムが税込み550円、A5大型サイズが税込み1,000円で、県内の大手書店及びセブンイレブン、ローソン、県庁生協、東京銀座のぐんまちゃん家などで扱うほか、県統計協会でも通信販売も行いますので、是非、お買い求めください。

なお、詳しいことは、県ホームページ、群馬県統計情報提供システムをご覧ください。または県統計協会(県統計課内。電話：027-226-2412)までお問い合わせください。